

みなさまの声や思いを力タチに！



宇治市議会議員

中村 まいに

議会
報告

Vol.16

自民党宇治市会議員団 総務常任委員会、議会運営委員会、広報委員会



改選後初となる6月定例会を終えて

4月に行われました宇治市議会議員選挙では、3327票という大変大きなご支援を賜り、2期目の当選をさせて頂きました。その重みを感じつつも、お約束をひとつずつ果たしていくよう努力して参ります。

みなさまから頂きました4年間は宇治市の新たな総合計画の策定など、これから宇治市にとって大きな4年間となります。地元のため、そして、宇治市全体のために力を尽くしていく決意であります。

また、総務常任委員会では、副委員長の役職を頂きましたし、広報委員会委員、議会運営委員会委員や京都府税機構議会議員にも選出頂きました。様々なお役を頂きながら、今宇治市に何が必要かを意識しながら一層努力をして参りますので、ご指導のほどよろしくお願ひします。



市長公約

公共交通体系基本計画 来年度中頃に策定へ

6月定例会の一般質問

各地域で求められているバスなどの外出の足の確保の問題(公共交通)について、市長任期も来年12月と迫る中、市長公約である公共交通体系づくりの進捗状況を問いました。

答弁:市内公共交通の利用促進や地域との協働した公共交通確保の取り組みの状況を踏まえながら庁内議論を深めており、来年度中頃の計画策定の検討体制等を調整している。

と策定時期を明言しました。

(裏面「住みやすいまちの創造」につづく)





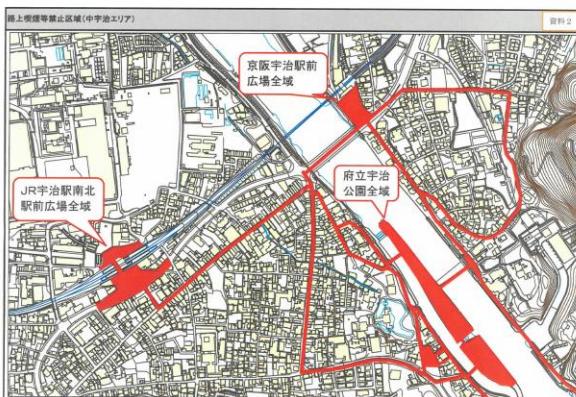
思いをカタチに！



これまで定例会や委員会で取り上げてきた「思い」が「カタチ」になったことをご紹介します。



平成28年12月定例会、平成29年11月決算委員会で触れていた「路上喫煙」。「観光地における路上喫煙等の禁止に関する指針」が策定されました。施行は令和2年1月1日です。



平成30年6月定例会で要望しました産後ケア事業。
本年度から実施されることになりました。



分からないこと、困っていること、相談したいこと、
私におしえてください。

あなたの声を届けていきます。

あなたの思いをカタチにしていきます。



「中村まいこ」で検索して、日頃の活動をチェックしてください。

はじめました

LINE@

右側のQRコードを利用してお友達追加してください ⇒
市政の情報発信をしています。

おしえてください



一般質問

4年前の初当選以来、毎回行っている一般質問。改選後の本定例会でも質問を行いました。今回は、「女性の輝く社会の実現」「住みやすいまちの創造」「健康増進」について質問をしました。質問の一部を以下にご報告します。

一般質問の様子はホームページから⇒



「女性の輝く社会の実現」



中村まいこ:児童虐待事案の背景にはDVなど女性が抱える多様な課題があるのではないか。市はその関連性について、どのように考えているのか。

答:DVは重大な人権侵害であるとともに配偶者間で暴力が繰り返される家庭の中で育った子どもが心身の成長・発達に影響を受け、青年期以降も影響が続く場合があり、関係機関と連携しながら迅速・的確な相談に努めていく。



中村まいこ:京都府は配偶者暴力相談支援センターにおける1センター当たり相談件数が1491人と全国で最も多く、市においても支援の充実、広報、また支援機関のハード面での充実も図るべきではないか。

答:一時保護を支える民間支援施設の役割は重要と考えており、これまでから施設や各機関との連携を行い、情報の共有及び相談支援に努めている。国や京都府に対し民間支援施設に対する運営補助制度など財政支援の要望をしている。

中村まいこからの訴え



家庭という密室での暴力に耐え続け、それでもなお、自分を責め、やつとの思いで、助けを求め、暴力という支配から逃れることができた。そして、病院や警察など行くところ行くところで、事情を説明し、その都度苦しさを押し殺さなければならない。そして、裁判所の手続きを経て、接見禁止の保護命令が発令されるというのが、暴力という支配からの逃れるための一連の流れではないか。それを被害者はどのような思いで、ひとつずつ乗り越えていかなければならないのか、乗り越えたとしても様々な障害、課題が待っている。あまりにも一人で乗り越えるには困難が多く、道半ばで諦める女性も多い。

そのような支えの一助に行政はなる必要があるのではないか。

「女性活躍」とキラキラした言葉の裏には生きづらさがある。

市としても改めて考え方組んでほしい。



「住みやすいまちの創造」(表面のつづき)



中村まいこ:今は市役所や文化センター、最寄り駅にいく足がないとの声だが、それが近くの病院やスーパーにも行けないという声に近い将来変わっていくのではないか。民間事業者も運転者の確保などが困難となり、地域の交通のあり方そのものを見直すことになる。2040年、2060年を見越して自動運転サービスも一考すべきでは?

2019.6.28日本経済新聞からの記事より(一般質問後の記事)



SBドライブが実証実験で走らせるバス
「ナビヤ アルマ」

ソフトバンク子会社のSBドライブ(東京・港)は自動運転用に設計したハンドルのないバスを公道で走行する実証実験を7月3日から5日まで実施する。東京都港区の汐留の「イタリア街」で一般車両の通行を制限せずに、走行試験を実施する。自動運転バスの事業化に向けて、技術の確立を進める。

利用するのは仏ナビヤ社製のバス「ナビヤ アルマ」。自動運転を想定して設計したバスで、ハンドルをなくした。全地球測位システム(GPS)などで走行している位置を測定し、レーザースキャナーなどで障害物を検知する。あらかじめ設定した道を自律走行できる。

日本国内での走行が可能なようSBドライブが改造した。自動運転バスを運行するためのSBドライブのシステム「ディスパッチャー」を通して、発進や停止などの指示を送る。実験中は不測の事態に備えて、コントローラーを持った運転手らが乗り込む。ハンドルのない車両が交通規制をしていない公道を走るのは国内初だという。バスの乗車定員は運転手を含めて11人。

中村まいこからの提案

人口構造が変化し、これまでどおりの公共施設を維持していくことが困難であり、今後の公共施設を考えるとき、歩いていけるところに市役所の機能を持たせることが必要ではないか。つまり、今は市役所まで行かなければできないことを例えば、コミセンや地域包括支援センターなどに機能の分配が必要であるし、公共交通体系を検討するのであれば、あわせて公共施設の再配置を考えるべき!

「健康増進について」



中村まいこ:健康長寿増進、あるいは医療費適正化においても生活習慣病の重症化予防は重点的に行わなければならないが、宇治市において、端的に言うと、重症化予防については、何も行っていない。健康長寿日本一を掲げながら、他の市町は取り組みを進められているのに、宇治市では行われていないということは、他の市町と大きな差異が生じていると言わざるを得えない。まずは、受診率の向上、そして、糖尿病腎性のリスクの高いと考えられる医療機関未受診者への勧奨、できることからしっかりと行って頂き、そして医師会等とも連携をしながら、健康で、人生を楽しめるよう、しっかりとしたサポート体制の構築を求めておくとともに、早期に事業着手するよう、今後も推移を見守っていきたい。

データヘルスについて、昨年9月定例会の一般質問で取り上げ、その重要性と有効

性を訴えたところ、今年度予算、しかも市長の特別枠でデータヘルスについて予算化が実現。

